

群馬県立富岡特別支援学校 学校評価一覧表(令和6年度版)

(様式)

羅 針 盤			学部・分掌	方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題	
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等					総合
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていきますか。	① 学校からの通信等で情報を発信し、保護者の80%以上が「学校の様子や生活がよく分かる」と感じている。	教務部 地域連携部 各学部	○ 学校だより、学年通信等で児童生徒の活躍の様子を速やかに伝えるとともに、送迎時や電話等で、児童生徒の様子について積極的に情報交換をする(週1回程度)。 ○ 学校のWebページを随時更新し、学習の様子をタイムリーに伝える。							
		② 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の内容について、保護者の80%以上が理解し、有効であると感じている。	各学部 教務部	○ 保護者面談や送迎時等で丁寧に保護者の意見や要望を聞いて、目標や手立てを確認するとともに、評価についても確実に説明する。							
		③ 各種交流及び共同学習について、保護者の80%以上が有効であると感じている。	各学部 交流部	○ 居住地校交流では担当者間の打ち合わせや保護者の説明を丁寧に言い、活動内容の改善・充実を図る。 ○ 各種交流及び共同学習の内容や方法の見直しや検討を行い、計画的、組織的に実施する。							
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	④ 地域のこども園や小中学校等への電話・メール相談、来校相談、訪問相談を年間150件以上実施している。	地域連携部	○ 相談支援センターの広報紙や小中学部学校参観の案内を地域の教育福祉施設・機関に配付し周知する。 ○ 自校や地域の教職員を対象とした研修会を実施し、特別支援教育に関する専門性の向上を図る。							
		⑤ 全教員が本校の目指す児童生徒像のもと、本校の教育方針を理解して支援・指導をしている。	各学部 各分掌	○ 学習形態や学習集団を弾力的に変えながら、児童生徒の実態に合わせて、楽しく学べるように工夫をする。 ○ 必要に応じて学部、分掌等を越えた協力を行う。							
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑥ 「個別の指導計画」に基づいた教員の支援・指導について、保護者の80%以上が満足している。	各学部	○ ラーニングマップやアセスメント表を活用して適切なアセスメントを行い、指導計画を作成するとともに、達成状況の評価や改善策の検討を学部内で行う。 ○ 保護者に目標や手立て、評価を分かりやすく具体的に説明する。							
		⑦ すべての教員が必要に応じてタブレット端末などのICT機器を活用し、児童生徒の学習指導を工夫して行っている。	各学部 教務部 (ICT係)	○ ICT機器の有効活用に関する研修や情報提供を行い、指導力の向上を図る。							
		⑧ 基本的な生活習慣の定着を図るため、家庭と学校が連携し、学校の支援・指導に対して保護者の80%以上が満足していると感じている。	各学部 保健部	○ 連絡帳、個別面談、電話連絡等において、児童生徒の健康や生活について十分な情報交換を行い、協力して実施する。 ○ 保健だよりや学校保健委員会を通して、健康管理についての情報を共有し、意識を高める。							
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑨ 健康で安全な学習環境を整備し、各種感染症対策に全職員が組織的に取り組んでいる。	各学部 保健部 危機管理部	○ 月に一回、安全点検を実施するとともに、日常的に教室等の学習環境を整える。 ○ 学校医の指示・指導に従い、感染防止対策を徹底する。							
		⑩ 全職員が「危機対応マニュアル」を理解し、避難訓練を年3回、緊急時引き渡し訓練を年1回、緊急搬送訓練(個別)を実施する。	危機管理部	○ 「危機対応マニュアル」を見直し、迅速かつ的確な対応ができるようにする。 ○ 児童生徒への事前予告なしでの訓練や教職員の欠員がある場合での訓練等を行い、課題を見出し、臨機応変に対応できる体制を整える。							
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	各学部 危機管理部	○ キヤリア教育全体計画のもと、基礎的・汎用的能力の育成に学習活動全体を通して取り組む。 ○ 職業教育に関する研修会を行い、キャリア教育に係る教職員の理解を深める。								
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キヤリア教育の視点から、指導内容を整理して体系的な指導を行っていますか。	⑪ 教員の80%以上が、キャリア教育の視点を意識し、将来の就労・社会生活を意識して、児童生徒の長所を伸ばす支援・指導を実践している。	各学部 移行支援部	○ キヤリア教育全体計画のもと、基礎的・汎用的能力の育成に学習活動全体を通して取り組む。 ○ 職業教育に関する研修会を行い、キャリア教育に係る教職員の理解を深める。							
		⑫ 個別相談や進路だより、研修会等の学校から提供される資料や情報が有効であると保護者の80%以上が感じている。	移行支援部	○ 企業関係者から得た情報や助言、卒業生・保護者の体験等を進路だよりで積極的に発信する。 ○ PTA施設見学会やPTA進路講演会を通して、卒業後の進路の選択肢について情報を発信する。							